

南山大学広報誌

NANZAN

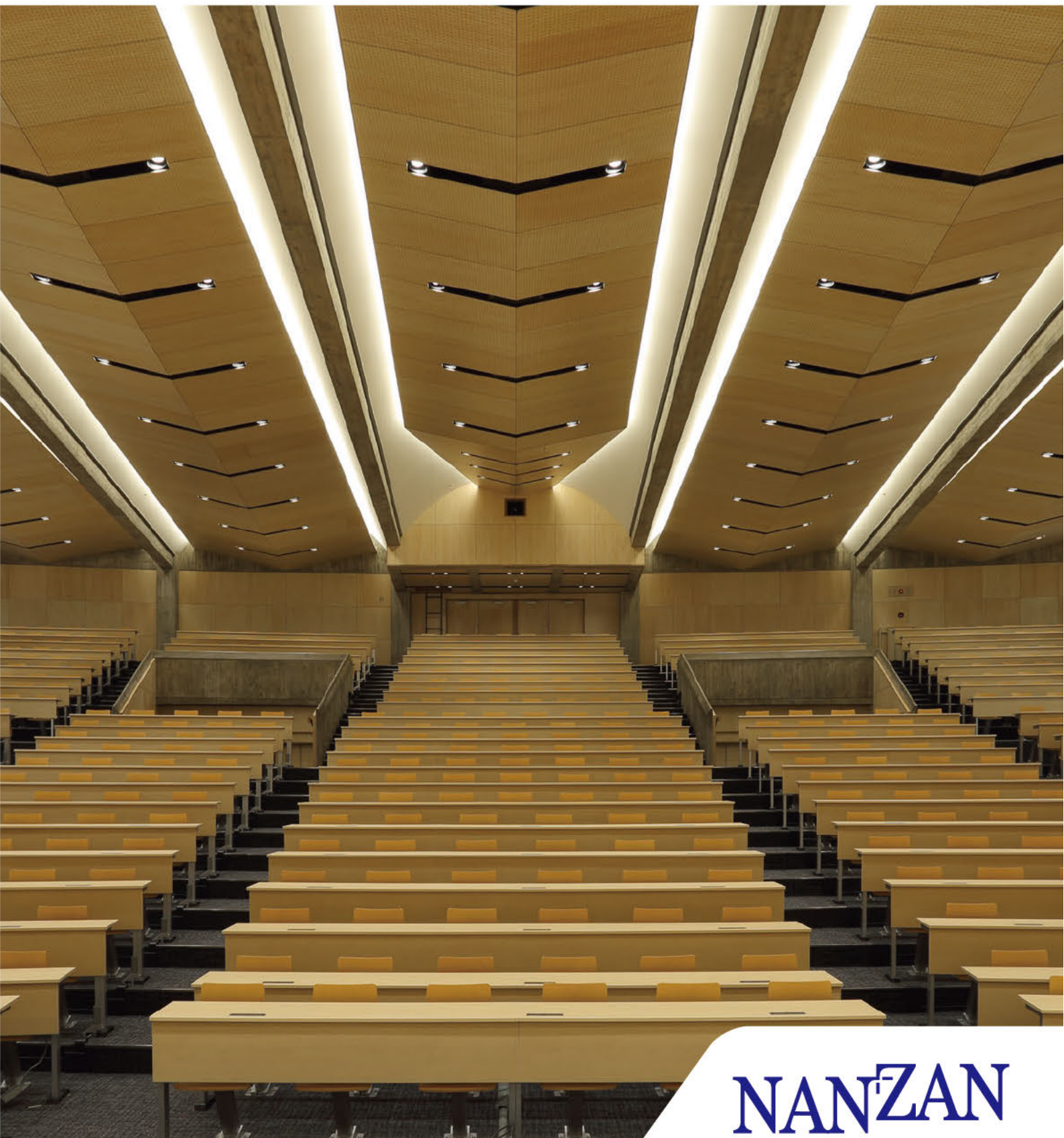
BULLETIN

vol.205
2018. 6. 30

特集

歴史あるキャンパスの
改修計画

レーモンド・リノベーション・
プロジェクト



リノベーション後のG30教室

NANZAN
UNIVERSITY

Raymond Renovation Project

レーモンド・リノベーション・プロジェクト

著名な建築家であるアントニン・レーモンド氏によって1961年に設計された南山大学のキャンパスは、自然との調和をはかり、また学問することの理想を形にしています。2017年度からレーモンド氏の設計思想である「自然を基本として」を継承し、建物の改修や外構整備を行う「レーモンド・リノベーション・プロジェクト」を進めています。既存教室の改修や学生のためのセミナー室整備に加え、安全性・利便性向上のためのグラウンド人工芝整備やキャンパス内動線の整備、セキュリティ強化やユニバーサル化にも取り組み、2021年度中の完成を目指しています。



第1期総合計画完成期(1964年)頃のキャンパス

[レーモンド氏の構想]

レーモンド氏が最初に山里の地を訪れ、尾根に続く細い道を目にしたとき、南山大学校舎構想は決定しました。「その土地の様子をみただけで私は即座に縦にも横にもダイナミックに広がる建築のアイデアを頭にうかべた。きわめて魅力的なその風景と草木を、できる限りそのままにしておかなければならない。ほとんど過ちをおかさな自然の巧妙なやり方で。」レーモンド氏は、南山大学の建築を通して、自然との調和をはかり、また学問することの理想を形にしました。



アントニン・レーモンド

Antonin Raymond

ボヘミア地方グラドノ(現在のチェコ共和国)生まれ。1919年、近代建築三大巨匠のひとり、フランク・ロイド・ライトの助手として帝国ホテル建設のために来日、その後1973年に85歳で日本を去るまで、第二次世界大戦前までの18年間と戦後の26年間のあわせて44年間を日本に滞在し、自然と風土に根ざした実用的で美しい建物を作り出した建築家として知られています。また、日本独自のモダニズム建築を確立した建築家・前川國男氏や吉村順三氏から師と仰がれました。妻のノエミ・レーモンド氏は家具などのデザイナーであり、民藝運動の創始者・柳宗悦氏をはじめ当時のすぐれた芸術家、思想家と親交をもったレーモンド夫妻は、日本の暮らしの中に生きる美、日本独自の伝統的な空間と生活の価値を深く理解しました。南山大学における床のパターンや家具の一部は主にノエミ氏によるものです。

G30教室改修 (2018年3月完了)

600名収容※の大教室として、扇形に設計されたG30教室は、建設当時の雰囲気を可能な限り保存しつつ、机・椅子や視聴覚設備を新調し、断熱性や遮音性の向上、換気設備の導入により、快適な空間に生まれ変わりました。

※改修後は565名収容に変更。



改修前のG30教室



改修後のG30教室

グラウンド人工芝整備

学生が授業や課外活動で使用しているグラウンドの人工芝整備を行います。2019年4月に完成予定で、各競技の公式戦にも対応しています。安全性を重視し、遮熱型の人工芝と充填材であるゴムチップによりクッション性を高め、けがの防止にも努めます。また、コミュニケーション・ロゴや陸上練習用のトラックにスクールカラーを採用し、美観の確保にも努めます。



人工芝グラウンド(完成イメージ)※

セミナー室の整備

2019年度中の運用開始を目指して、各学部1学年分の学生を収容できるセミナー室の整備を予定しています。

セミナー室は、主にゼミナールごとに部屋を割り当て、教員による学生指導や演習、授業時間以外での自主学習やグループ学習、プレゼンテーションの準備など、学生の主体的な学びの場となることを期待しています。



セミナー室(完成イメージ)※

キャンパスのユニバーサル化

初めて訪れる方にも目的地が分かりやすいように、サインの更新を推進しています。日本語と英語の併記、エリアカラーやピクトグラムを用いて視認性を高めていきます。また、G棟にエレベーターを新設し、キャンパス内各所に手すりを設けるなど、バリアフリー化に取り組みます。

※完成イメージは実際と仕様が異なる場合があります。



G棟エレベーター(完成イメージ)※



建物の改修に合わせて更新したサイン

Topic

レーモンド・リノベーション・プロジェクト募金のご協力のお願い

南山大学では、レーモンド・リノベーション・プロジェクトの推進にあたり、卒業生や保護者の皆さまをはじめ、広く地域社会の皆さまにご支援をお願いさせていただくために、「レーモンド・リノベーション・プロジェクト募金」を2018年7月から開始させていただくこととなりました。この募金でいただきましたご厚志は、歴史あるレーモンド建築を次の時代に受け継ぎながら、キャンパスアメニティを改善し、学生生活環境や学習環境を充実させるために活用させていただく予定です。皆さまからのあたたかいご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【募金概要】

募集期間：2018年7月1日～2022年3月31日

目標額：3億円

寄附特典として、オリジナルグッズの進呈や寄附銘板の作成および学内への設置を予定しております。

詳しくは南山大学公式Webページでご確認ください。

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/bokin/index.html>

お問い合わせ先：南山大学学長室 052-832-3113

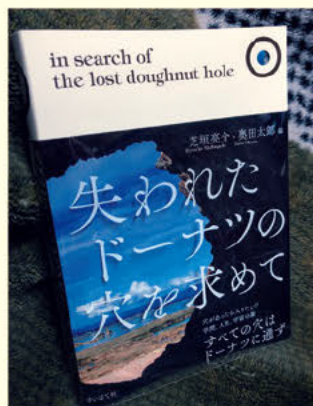


私の研究



奥田 太郎 (おくだ たろう)
 社会倫理研究所/人文学部 人間文化学科 教授
 専攻分野は、哲学、倫理学、応用倫理学。
 研究テーマは、善悪・徳義と倫理の関係、内部告発問題、医療倫理問題、他。
 主な担当科目は、哲学 倫理学における人間の尊厳、生命と倫理問題、現代の倫理学。

ナツ中央の欠如部分を「穴」と呼ぶ理由を言語学的に考えたりと、様々な方面から真剣に探求できるのがわかります。様々な学問の視点から「ドーナツの穴」について研究するにはどうしたらよいか、ということを考え、それぞれの研究成果の全体的な配置を見定めて、人間の知性の奥行きを探ることも、「当たり前のことに驚き、それを問い直す」哲学の研究の一つなのです。地道な探求とともに、こうした精神の冒険を恐れずに続けていくこと。それが私の取り組んでいる研究です。



『失われたドーナツの穴を求めて』さいはて社 (2017年、芝垣亮介との共編著)

当たり前のことに驚き、それを問い直す

私は、現代における倫理問題および倫理そのものについて哲学的なアプローチで研究しています。具体的に言えば、哲学者ヒュームの古典的なテネキストの解説を通じて信念と倫理の関係について原理的に考察する哲学史的研究をする一方で、内部告発が人間の集団生活に対して持つ倫理的意味を考察する応用倫理的な研究もする、という形で、理論的な問いと実践的な問いの往復を続け、倫理と倫理学の核心を明らかにしようと試みています。私自身の問題関心に基づく研究は他にもありますが、今回はあえて、最近取り組んだ少しユニークな共同研究についてご紹介することにします。

ドーナツの穴について真剣に考えたことがあるかと聞かれれば、多くの人はおそらく唖然とすることでしょう。しかし、少し深く事柄を見つめてみれば、ドーナツに穴があった時点を経済学的に解き明かしたり、ドーナツの穴を売るための値段設定を経済学的に考えたり、ドーナツ

私のクラス



上野 正樹 (うえの まさき)
 経営学部 経営学科 准教授

専攻分野は、経営戦略論、国際経営論、イノベーション研究。
 研究テーマは、新興国ビジネスと高付加価値経営。
 主な担当科目は、経営学総論、経営戦略論。

価値づくりの面白さ、楽しさ、厳しさ

経営学部のわたくしのゼミナールでは新商品開発を実践しています。最近、お豆腐の製造会社(ハイミート株式会社)とゼミ生で新商品「ぶっちゃん」を企画し、販売することになりました。当初、学生たちはインターネットのレシピサイトをもとに約1,000件のお豆腐メニューを分析し、販売することになりました。当初、学生たちはインターネットのレシピサイトをもとに約1,000件のお豆腐メニューを分析し、販売することになりました。この世にないお豆腐の提案に参加者はみなワクワクしていました。

しかし商品開発においては、製造工程、材料調達、販路の制約からアイデアの実現可能性が問われます。原価も詳しく

考慮する必要がありました。その結果、「お豆腐の新しい食べ方の提案」に力点を置いた新商品の考案へと向かいました。具体的に決定した新商品は、ご飯にのせて食べるお豆腐(忙しい人にも、手軽な調理で美味しい出汁入り豆腐)です。学食業者様の協力で、試食品を多くの学生に試してもらいました。そして味付けの改良とパッケージの考案を経て販売決定となりました。

アイデアの却下で悔しい思いをしたり、ゼミ生同士の突飛んアイデアに笑いだしたり、販売決定に歓声があがったりと、ゼミはいつもにぎやかです。今後、価値を判断する消費者の声をもとにした商品改良も必要になるでしょう。わたくしは、価値づくりの面白さや厳しさをゼミ生と一緒に体験しています。そして、ゼミ生とわたくしは、こうした学びに協力して下さる皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。



INTERNATIONAL FRIENDSHIP



アメリカでの交換留学

外国語学部英米学科4年 鬼頭 あずさ
 留学先: The Ohio State University (アメリカ合衆国)
 留学種別: 交換留学
 留学期間: 2017年8月16日~2018年5月1日

私は、アメリカ合衆国オハイオ州コロンバスに位置するオハイオ州立大学に留学していました。留学期間中の前期は、すべての授業が大教室で行われていたため、どのような雰囲気で行われるのか様子を見ながら受講していました。特に、大人数の中でも質問が飛び交うアクティブラーニングが定着しているところに、日本との文化の違いを感じま

した。また、グループプロジェクトがメインの授業が1つあり、メンバーと協力してポスタープレゼンテーションを成功させることができ、とても良い経験ができたと思います。

後期に入ってから、15人ほどの少人数で行われる授業と、セミナー形式で行われる授業に挑戦しました。少人数の授業では最終講にスピーチをすることになっていましたので、授業内では即興スピーチの練習を重点的に行いました。慣れない即興スピーチの練習に初めは緊張していましたが、次第にクラスメイトのスピーチを聞くのがとても楽しくなり、受講して良かったと思えるまでになりました。セミナー形式の授業でも少人数で発言する機会がありましたので、こちらも良い緊張感をもって臨むことができました。何より、これらの授業を通して、留学前からずっと学びたいと思っていたコミュニケーションそのものを日々勉強できることの嬉しさを改めて実感できました。

また、「おしゃべり会」という、日本語を練習したい学生が所属するクラブにも顔を出していました。ミーティングでは毎

回、メンバーの誰かが日本文化についてのプレゼンテーションをすることになっており、先日私も弓道についてプレゼンテーションさせていただきました。プレゼンテーション後に他の学生から「弓道に興味を持った」や「弓道を見てみたくなった」と言っていたので、日本特有の文化を少しでも広められる貴重な機会となりました。

学外の活動としては、日本人学生団体 The Japanese Student Organization (JSO) の Officer Assistant としていくつかのイベントのお手伝いをさせていただきました。先日は「Taste of OSU」という、各国の学生団体が自国の料理を出店形式で販売するイベントで、お好み焼きとチョコバナナを販売しました。こちらの予想を超える大盛況で、たくさんの方に日本独特のお祭りの雰囲気を楽しんでいただけたと思います。

留学生活中に就職活動も解禁となり、両立が大変でしたが、オハイオ州立大学でしかできないことを模索し挑戦することで、自分自身の成長に繋げることができたと感じています。



Taste of OSUでの集合写真



Taste of OSUで提供したチョコバナナ

キャリア支援室 プログラム紹介

キャリア支援室では毎年多彩なプログラムを実施しています。「キャリアサポートプログラム」は、特に低年次生の参加を推奨していますが、すべての学年の方が参加可能です。また、学部3年次生と大学院修士1年次生向けには、「就職支援プログラム」を実施します。学生の皆さんは、積極的に参加してください。

キャリアサポートプログラム

学部・学科別学び方講座(1年次生対象)

4月から5月にかけて、新入生対象の「学び方講座」を実施しました。各学科の教員から大学での授業の進め方や卒業後の進路などの説明をうけ、学生は自らの大学生活での具体的な目標や課題設定を行いました。

希望進路別ガイダンス [就職(民間)、就職(公務)、進学(文系)、進学(理系)]

4月から5月にかけて、1・2年次生を対象に希望進路の実現に向けて大学生活をどう過ごすかを考えるための講座を実施しました。3回に分けて行われた「希望進路別ガイダンス」では、南山大生の進路実績や南山大学の支援体制のほか、学内外の講師を招き、幅広い情報提供を行いました。

インターンシップサポート[ガイダンス(文系・理系)、選考対策、ビジネスマナー]

5月から6月にかけて、インターンシップの活用方法や参加するうえで必要なマナーを学ぶ講座を実施しました。参加学生はインターンシップの意義や参加手順について理解を深め、実習時や社会に出てからも役立つビジネスマナー等を身につけました。

卒業生に聞いてみよう!

9月には、各界で活躍する卒業生をお招きし、社会人としてのやりがいや生きがい、学生時代の体験等を伺う講座を実施します。

★秋学期には、実践・体験プログラムで自らの適性・強み・弱点を知る「テーマ別ワークショップ」や、業界・職種について理解を深める「業界・職種研究会」など多彩なプログラムを予定しています。

就職支援プログラム (主に学部3年次生・修士1年次生対象)

文系は4月、理系は5月に就職ガイダンスを実施し、就職活動への心構えや就職支援プログラムのスケジュール等を確認しました。今後は就職講座やワークショップ等で、具体的な準備を進めていきます。秋学期には希望者に対し個別面談(スタート面談)を実施しますので、学生の皆さんはぜひ活用してください。

[7~10月の予定]

行事の詳細および11月以降の予定はWebページまたはPORTAに掲載します。

プログラム名	文系	プログラム名	理系
就職講座4[企業研究]	7月18日(水)	第2回就職ガイダンス	9月26日(水)
筆記試験Web模擬テスト	9月5日(水)	就職講座2[筆記試験対策]	10月3日(水)
第2回就職ガイダンス※	9月19日(水)、 26日(水)	就職講座3[自己理解・自己PR]	10月10日(水)
就職講座5[志望動機・ESの書き方]	10月10日(水)	就職講座4[業界・職種研究]	10月17日(水)
就職講座6[筆記試験]	10月17日(水)	就職講座5[志望動機・ESの書き方]	10月24日(水)
就職講座7[GW・GDのポイント]	10月24日(水)	就職講座6[面接対策]	10月31日(水)
就職講座8[マナー・面接対策]	10月31日(水)		

※学部により実施日が異なります。

<http://office.nanzan-u.ac.jp/CAREER/index.html>



卒業後の進路が決まった学生の皆さんへお願い

「進路届」の提出および、「就職活動体験記」へのご協力をお願いいたします。「進路届」は進路が決まった時点で、全員提出が必要です。また、体験記は後輩の皆さんにとって何物にも代えがたい貴重な資料となりますので、ぜひご協力ください。

「進路届」用紙および「就職活動体験記」記入フォーマットは、キャリア支援室(Q棟2階)でお渡しします。

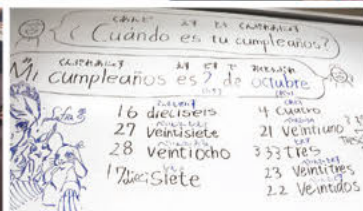
活躍する南山大生

スペイン語母語教育を通じた地域支援

スペイン・ラテンアメリカ学科を中心とした学生グループ「スペイン語母語教育グループ」が、名古屋市在住で主にラテン系のルーツを持つ家庭に生まれた子どもたちにスペイン語母語教育を通じた支援を行いました。この活動は、学生たちが本学で学んだスペイン語を生かし、プリントや映像、レクリエーションを通じて子どもたちに楽しくスペイン語に触れることのできる機会をつくとともに、参加児童の保護者の方々にも情報交換や交流の場の提供をすることを目的として、2017年度南山チャレンジプロジェクトに採択されています。

この支援を行うにあたり学生たちは、名古屋国際センターやペルー大使館でのチラシの配布、Facebookへの掲載などの広報活動だけでなく、保護者の皆様への説明会を実施し、実際に子どもたちのスペイン語のレベルや要望を聞くことで、具体的な支援内容を決定しました。支援の一つとして昨夏に行った授業では、スペイン語による簡単な

会話の練習やレベル別に読み書きの練習をし、授業の最後には毎回、子どもたちが選んだ絵本を読み聞かせし、子どもたちはとても興味深そうに聞き入っていました。



南山のDNA

ダカールラリー2018で部門優勝!



三浦 昂
法学部法律学科
2004年度卒業

Profile

トヨタ車体株式会社の社員ドライバーとして、世界一過酷なモータースポーツと言われるダカールラリーに参戦。白旗はラリーに向けたフィジカルトレーニングやマシントレストのほか、広報室の一員としてラリーに関する広報業務も担当。

2007年からクロスカントリーラリーチームTLCのナビとしてダカールラリーに参戦し、2016年よりドライバーに転向しました。2017年には市販車部門準優勝、2018年大会ではドライバーとして初の部門優勝とチームの5連覇を果たしました。今年のコースはサバイバル要素の強い、極めて過酷なものでした。メインステージは、延々と続く砂丘に、高さ30~40mもの砂の壁。登り切るまでその先の地形は見えず、スピードコントロールを誤れば、尖った頂上を越えた瞬間に転落します。恐怖心と闘い、数々のトラブルを克服し、絶対的な信頼を寄せるナビの指示に従ってペースを守り、完走率47%という厳しいレースを勝ち抜くことができました。

幼少期からレーサーに憧れ、大学入学後は司法書士兼アマチュアレーサーを将来の目標に、法律の学びと自動車部

の活動に明け暮れました。資格試験の結果に落胆しつつ訪れたキャリア支援室の方からトヨタ車体を紹介いただき、本学OBの採用担当者との面接時、偶然にもダカールラリーの社員ナビの道を知り、挑む決意をしました。最良の進路に出会えたとはいえ、司法書士試験をあきらめた悔しさが、その後のレース活動でどんなに苦しくても決めたことをやり抜く原動力となっています。フランス人が半数を占める現在のチームメンバーと当時まだ慣れなかった英語で意思疎通するうえで、南山大学のキャンパスで外国人学生とあたりまえに交流していた日本人学生の姿を思い出し、励まされました。

一会社員としてラリーに勝つという目標を実現するためには、毎日が無数の判断の連続です。私から南山大生の皆さんに伝えたいのは、「前例にとらわれないでほしい」ということ。未知の方法を恐れて誰かが成功したやり方をたどるのではなく、時間がかかっても自分自身で最善



ペルー・ポリビア・アルゼンチンの約9,000kmを、15日間かけ走破 (トヨタ車体株式会社提供)

市販車部門優勝トロフィー (トヨタ車体株式会社提供)

の方法を考えてほしいと思います。それでこそ恐怖心が消え、自信を持って前に進めるのです。

2018.3.3

南山エクステンション・カレッジ 公開講演会

3月3日にDB1教室で、南山エクステンション・カレッジ公開講演会を開催しました。今年度は2017年4月の国際教養学部開設を記念し、国際教養学部、名古屋市教育委員会の共催で、「南山大学創立50周年記念基金事業 国際教養学部開設記念」として行い、カトリック名古屋教区の松浦悟郎司教をお招きしました。

第1部の松浦司教による基調講演では、テーマを『“時のしるし”に添えて一岐路に立つ現代世界の中で』とし、人間の尊厳の普遍性などについてお話いただきました。第2部では、本学国際教養部長の斎藤衛教授がコーディネーターとなり、パネリストに松浦司教、南山宗教文化研究所長の金承哲教授（人文学部）、国際教養学部の神崎直次教授、VOLPE、Angelina教授、山岸敬和教授を迎え、『人間らしく自立した個人として生きるために』をテーマにパネルディスカッションを行いました。

当日は、一般の方、学生、教職員など170名が来場し、盛況のうちに幕を閉じました。



2018.3.19

南山短期大学・ 南山大学短期大学部50年 閉学部記念感謝ミサ

3月19日に、リアン2階で南山短期大学・南山大学短期大学部50年 閉学部記念感謝ミサを開催しました。ミサの主司式司祭を務めた市瀬英昭南山学園理事長・南山大学短期大学部教授は、「神の導きと多くの人たちの協力と献身によって展開されてきた南山短期大学、南山大学短期大学部の教育活動の結晶としてこのミサをともに祝いたいと思います」と述べました。ミサの後は隣接する会場で懇親会が行われ、来賓の皆さまや教員、職員の交流の場となりました。



2018.3.21

2017年度卒業式

3月21日に、体育館で2017年度卒業式を行い、2,403名（学部生2,315名、大学院生88名）の卒業生を送り出しました。

中部圏唯一の男女共学のカトリック系ミッションスクールである本学らしく、式では「卒業感謝の祈り」として司祭による聖書朗読、各学部の代表による共同祈願などが行われた後、学位授与式に移りました。

鳥巢義文学長は告辞において、『マタイによる福音書』の中から、「あなた方は地の塩である」、「あなた方

は世の光である」という2つのキリストの言葉を引き、「塩味」という表現が私たちの「個性」や「ユニークさ」を意味しており、世の人々のために、自分の「光」、すなわち「持ち味」や「個性」を発揮することが求められていますとも説きました。

当日はインターネット（USTREAM）で卒業式の模様を同時中継しました。



2018.3.31-2018.4.5

フレッシュマン祭

3月31日から4月5日までの（4月3日を除く）5日間、フレッシュマン祭を開催しました。

これはクラブやサークルを紹介する新入生歓迎のイベントで、キャンパス内のメインストリート等にブースを設けたり、グリーンエリアでは、応援団による演技披露や音楽団体による歓迎ライブ等を行ったりして、自分たちのクラブを新入生に紹介していました。



2018.4.1

2018年度入学式

4月1日に、体育館で2018年度入学式を行い、2,327名（学部生2,247名、大学院生80名）の入学者を迎えました。

鳥巢義文学長は告辞において、「本学は教育モットーとして『人間の尊厳のために』を掲げています。人を敬い相互に大切に社会の実現を目指していることです。本学で学び始める皆さんには、自分の目の前の物事や現象、さらに皆さん自身について『問いかけ』をお願いしたい」と語りました。また、共有したい言葉として「自覚・成長・円熟」という三つを挙げ、「自分自身の勉学の目標を問うことによって『自覚』した課題を解決するために『成長』し、『円熟』を目指してください」とメッセージを贈りました。

当日はインターネット（USTREAM）で入学式の模様を同時中継しました。



2018.4.11

春の南山留学フェア

4月11日に、R63教室で春の南山留学フェアを開催しました。これは、南山大学の協定校（交換留学先

の大学）を知ってもらうためのイベントで、現在、外国人留学生別科に在籍している外国人留学生が母校の様子を紹介したり、実際に留学したことがある日本人学生が相談に乗ったりしました。

今回は、13カ国（アメリカ、コロンビア、ペルー、オーストラリア、フランス、スペイン、ドイツ、チェコ、スウェーデン、イギリス、フィリピン、中国、韓国）42大学のブースを設け、留学に興味のある学生が積極的に相談をしていました。



2018.5.9

体育会入会式

5月9日に、G30教室で体育会入会式を行いました。これは、体育会所属の各クラブに入部した新入生のために行われるイベントです。南山大学体育会の一員であることを自覚し、心技体に磨きをかけてもらうべく、副学長（教学担当）や学生部長、体育会OB会長、体育会執行委員長などから激励の言葉がありました。入会式の後にはリアンで懇親会が行われ、各クラブの新入生代表者が今後の決意表明をしたり、他のクラブの学生と交流を深めたりしました。



2018.5.11

経営学部経営学科・石垣ゼミ生に NEXCO中日本名古屋支社より感謝状贈呈

5月11日に、経営学部経営学科・石垣ゼミの学生が「パンのトラ」と【いっぺん食べてみりん、五平パン】を共同開発したことに対して、NEXCO中日本名古屋支社より、平成29年度功績表彰として感謝状が贈呈されました。これは、南山大学とNEXCO中日本名古屋支社および中日本エクスプレス株式会社名古屋支店との産学連携活動の一環で、株式会社名古屋銀行のご紹介で高速道路のサービスエリア（SA）やパーキングエリア（PA）の魅力アップのため、石垣ゼミの学生がNEOPASA岡崎に出店しているベーカリー「パンのトラ」と連携して新商品を開発したものです。SAやPAにおける販売商品の充実や売り上げ向上に尽力したとして、開発メンバーを代表し、経営学部経営学科4年で石垣ゼミの服部裕太さんが感謝状を受け取りました。



Special Events Schedule

2018.7.6-2018.7.8

第59回上南戦

7月6日から7月8日の3日間にわたり、第59回上南戦(上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会)本戦を南山大学で開催します。今年のスローガンは“One Chance”です。昨年は惜しいところで負けてしまった試合もあり、今年はその経験から、「一試合、一つのボールにかけて、僅かなチャンスを逃さず勝利につなげたい」という強い思いが込められています。ぜひ応援をよろしくお願いします。



2018.7.21-2018.7.22

オープンキャンパス

昨年は8,000人を超える方にご来場いただきました。今年は7月21日(土)・22日(日)に開催します。模擬授業や学科説明会、学科の内容・入試・留学・就職などの相談コーナーだけでなく、在学生によるキャンパスツアーなどのさまざまな企画を用意



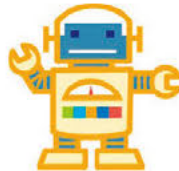
しています。ぜひご参加ください(予約不要)。
詳細は、大学Webページ「受験生の皆様」をご覧ください。
<http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/>



2018.7.14-2018.7.16, 2018.8.4

小・中学生向け講座「大学で、未来の自分を探してみよう！」

南山大学の知的財産を地域に還元することを目的として小学生(4年生～6年生)・中学生を対象とし、以下の日程で体験型の9講座を開催します。



◁:小学生対象、◇:中学生対象

- 7月14日(土) ● わくわくロボットランド ※小5～6年生対象
◇ 留学生と交流しながら探索する世界
● いろいろな国の留学生と楽しく交流しよう!
◇ ロボット・モータ制御の仕組みを知ろう
- 7月15日(日) ● 考古学者になりきろう!—縄文土器を研究する
- 7月16日(月祝) ● 環境問題(食の大事さ)について大学生と話しあってみよう!
◇ 触って楽しむ博物館—人類博物館の楽しみ方
- 8月 4日(土) ● 民事裁判を体験しよう
◇ 有罪・無罪を決めるのは君だ!

2018.9.29

父母の集い

9月29日(土)に、父母の集いを開催します。学部生保証人の皆様に対し、本学における教育・研究をはじめ、留学や就職支援に関する取り組みについてご説明させていただく機会となっております。

また希望される方は、指導教員との個別面談(要事前申込)も実施しています。

※詳細は9月頃に保証人様宛に送付する案内文書でご確認ください。



News

■ 南山大学 中国事務所開設

2018年5月11日に、本学の交換留学協定校である華東師範大学(中国上海市)で、南山大学中国事務所の開所式を行いました。これまで欧米やアジアの大学との交流を深めてきた本学が、初めて海外事務所を設置しました。昨秋より、北京と上海の2カ所で現地業務委託先のスタッフが南山大学のPR活動や留学生支援の業務を開始しています。

開所式には、上海総領事館領事や上海日本人学校校長、華東師範大学副学長をはじめ、本学卒業生や留学生別科修了生など約40名が参加されました。鳥巢学長は冒頭挨拶の中で、「本学の国際化ビジョン実現のために、中国事務所の活用は非常に重要であり、中国との交流もますます活発にしたい」と話し、国際化や中国との交流のさらなる活性化に期待を込めていました。また、閉会の挨拶では、星野副学長(国際担当)が流暢な中国語でスピーチして大きな拍手を浴びるなど和やかなムードで行われ、出席者同士の懇親が深められました。本学では、今後も中国に限らず海外事務所を設置の可能性を検討していきます。



■ 服部国際奨学財団との連携協定締結

2018年3月6日に、南山大学と公益財団法人服部国際奨学財団との連携協定締結の調印式を行いました。この連携協定は、経済的理由により進学が困難な日本人学生、およびアジア諸国からわが国の大学に留学する学生に対して、服部国際奨学財団から継続的に奨学金を給付いただくものです。なお、この連携協定締結は、より多くの留学生に奨学金受給の機会を提供するとともに、当財団が主催する交流会や講演会等のイベントへの参加を奨励することで、ともに人材育成を目指す目的があります。2018年度は、本学への留学生2名に対して当財団より月額10万円の奨学金をいただき、2019年度以降も2名以上の学生・留学生に対し奨学金を給付いただく予定です。



2018.5.16

中国の北京信息科技大学から、王传亮校務委員会主席、卢静国際交流所所長、张健経済管理学部部長、王智勇共産党大学オフィス副主任、日中留学推進機構から吉田健一様が来学されました。鳥巢学長、星野副学長(国際担当)を表敬訪問され、林経済学部部長との面談の後、キャンパスを見学されました。



2018.5.31

ハンガリーのブダペスト商科大学から、DIETZ, Ferenc総長、SANDOR-KRISZT, EVA名誉学長、HIDASI, Judit名誉教授が鳥巢学長を表敬訪問されました。その後本学との協定締結に向けた協議を行いました。



2017年度 学長表彰

卒業予定者のうち品行方正で、学業あるいは課外活動で特に優れた成績を修めた学生、または特に顕著な善行が在学中継続した学生32名に、その努力と榮譽を称え、学長から表彰盾を授与しました。

【人文学部】 7名	【法学部】 3名
【外国語学部】 7名	【総合政策学部】 4名
【経済学部】 3名	【理工学部】 3名
【経営学部】 3名	【短期大学部】 2名

2018年度 学部長表彰

年度ごとに品行方正で学業に優れた成績を修めた学生119名に、その努力を称え学部長から表彰状を授与しました。

【人文学部】 21名	【法学部】 15名
【外国語学部】 21名	【総合政策学部】 17名
【経済学部】 15名	【理工学部】 12名
【経営学部】 15名	【国際教養学部】 3名

学位

山崎智子 講師 教職センター
博士(教育学) 東京大学 2016年12月14日付

江坂篤侍 助教 理工学部
博士(数理情報学) 南山大学 2018年3月21日付

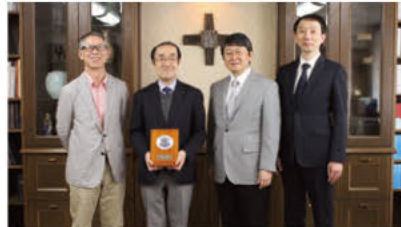
名誉教授称号授与

次の5名の教授に対しその功績を称え、2018年4月1日付で名誉教授の称号を授与しました。

人文学部 石田裕久 教授
人文学部 細谷 博 教授
外国語学部 佐竹謙一 教授
経済学部 近藤 仁 教授
経済学部 中矢俊博 教授



(中央)石田裕久教授



(左から2人目)細谷博教授



(中央)佐竹謙一教授



(中央)近藤仁教授



(中央)中矢俊博教授

退職

2018年3月31日付

●人文学部

教授 西脇 純
教授 石田裕久
教授 岡田 暁
教授 細谷 博
教授 鎌田 修
准教授 鈴木 志元

●外国語学部

教授 藤本 博
教授 加藤 隆浩
教授 佐竹謙一
教授 丸岡 高弘
教授 周 錦樟
准教授 高岡 佑介

●経済学部

教授 近藤 仁
教授 中矢 俊博

●理工学部

教授 阿草 清滋

●短期大学部

語学講師(A.I.) FORD, Ashley

●ビジネス研究科

教授 安藤 眞澄
准教授 岡田 昌也

●外国語教育センター

語学講師(L.I.) DOIRON, Heather
語学講師(L.I.) ASHUROVA, Umida
語学講師(L.I.) CHAPMAN, Jim

●教職センター

教授 小田 博一
教授 岡田 順一

●外国人留学生別科

語学講師(L.I.) 安井 朱美

新任教員紹介

2018年4月1日付

●人文学部

教授 羽山 洋介
(専攻分野: 日本語学)

准教授 浅石 卓真
(専攻分野: 図書館情報学、計量言語学、教育学)

准教授 中尾 央
(専攻分野: 科学哲学、科学史、科学技術社会論)

准教授 岸川 俊太郎
(専攻分野: 日本文学)

講師 青木 剛
(専攻分野: 臨床心理学)

講師 解良 優基
(専攻分野: 教育心理学)

●外国語学部

准教授 永田 智成
(専攻分野: スペイン政治、比較政治学)

准教授 稲垣 和也
(専攻分野: インドネシア語学、記述言語学)

講師 手塚 沙織
(専攻分野: 国際関係論)

講師 遠藤 健太
(専攻分野: ラテンアメリカ地域研究)

講師 中山 俊
(専攻分野: 歴史学)

●経済学部

准教授 川本 真哉
(専攻分野: 数量経済学、日本経済史、日本経営史)

●総合政策学部

教授 佐藤 創
(専攻分野: 開発経済学、アジア経済論、法と開発、国際開発論)

●法務研究科

准教授 永江 亘
(専攻分野: 商法)

●南山宗教学文化研究所/人文学部

講師 MCMULLEN, Matthew
(専攻分野: 仏教学、日本宗教)

助教 Tim, Graf
(専攻分野: 国際多元文化)

●外国語教育センター

語学講師(L.I.) FILER, Benjamin
(専攻分野: 英語教育)

語学講師(L.I.) 都築 千絵
(専攻分野: 英語教育)

●教職センター/理工学部

教授 笹尾 幸夫
(専攻分野: 英語教育)

●保健センター

教授 笹井 冠奈
(専攻分野: 内科学、循環器内科)

寄附者ご芳名

「南山大学将来構想募金」へのご協力に感謝いたします。

保高 功 様 牟田口義美 様 近藤由美子 様
鈴木俊郎 様 岩井光子 様 新保のみ子 様
隅田 実 様 天野 八郎 様 福味康子 様
根本 景子 様 竹内 賢一 様 小谷 英典 様
青山 範子 様 竹内 昭子 様 平尾 節子 様
大竹 正男 様 村瀬 義彦 様
萩谷 良夫 様 村瀬 慧莉 様
山本 浩隆 様 杉本 博昭 様
南山大学77生大同窓会 様
南山大学同窓会 様 匿名ご希望者 15名様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

平尾 節子 様
三機工業株式会社中部支社 様
宗教法人 カトリック神言修道会 様
物質文化研究会 代表 後藤 明 様
匿名ご希望者 2名様

将来構想募金終了のお礼

2014年3月から皆様にお願ひして参りました「南山大学将来構想募金」は、2018年3月31日をもちまして終了いたしました。

在学生ご父母の皆様、同窓生の皆様、関連企業の皆様、その他本学教職員等多くの方々から総額1億4,504万円のご支援を賜りました。ここにご報告するとともに、皆様からの温かいご厚志に心より感謝申し上げます。

なお、賜りましたご厚志は、2017年度のキャンパス統合のための新棟建設をはじめとする将来構想に有効活用させていただき、教育・研究のさらなる充実により、広く社会に還元して参りたいと存じます。

南山大学では、これからは「絶えざる自己改革」の精神に基づき、さらなる発展と社会に貢献できる人材の輩出に努めて参ります。引き続き、皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

将来構想募金の目録授与式

南山大学同窓会から本学へ将来構想募金として1億円のご寄附をいただき、2018年3月21日に改修工事が終わったばかりのG30教室で目録授与式を行いました。森本同窓会長から鳥巢学長へ「南山大学発展のため」という願いとともに目録が贈呈されました。鳥巢学長と学生代表として体育会執行委員長の佐藤志帆さん(法学部3年)からは、同窓会の皆様へ感謝の意を表して、お礼の挨拶を述べられました。

